

東海大学 機友会々報

東海大学機友会事務局
〒151 東京都渋谷区富ヶ谷 2-28-4
☎ 03(467) 2211(内)381
代々木校舎 動力機械工学科 事務室
印刷 信友印刷株式会社
☎ 03(444) 2481代

機械系同窓会が発足

東海大学機械系四学科の卒業生はすでに七千名を越えている。この期に当り学科別の同窓会を作ろうという機運が高まっているが、その合同設立総会が、昭和五十六年十一月十四日午後四時より霞ヶ関ビルの校友会館において、約三百名の卒業生出席の下に盛大に行われ、次の三つの同窓会が同時に発足した。

総会には司会の康井義明氏(四十一年度卒)による開会の辞で始まり、準備委員長の村上俊太郎氏(三十九年度卒)より、五十六年六月十三日に準備委員会を発足させて以来の経過報告が行われた後、議長団を選出して議事に入った。

来賓の諸先生を代表して三人の方々よりご祝辞に加え次のような要旨の激励の言葉をいただいた。

来賓の祝辞

萩三二先生
副学長・工学部長



本日このように盛大に同窓会を発足させられたことは、今後就職をはじめとしていろいろな面で非常な力になると思います。機械系だけで毎年約六百名の卒業生が社会に出てゆくわけですが、これからは学科の横のつながりだけでなく、先輩後輩の縦のつながりも一層強いものにしてゆくことができるわけで、ぜひひらばな同窓会に発展させていきたいと思います。

松原清先生 生産機械工学科主任教授



ますます優秀な卒業生が多数出るようになってきました。このことは我々教員の側としても非常に嬉しいことで、一層頑張らねばならないと思っております。このたび設立された同窓会を大いに発展させていただき、我々と皆さんと手をたずさえて優秀な人材を社会に送り、育ててゆきましょう。

志真俊夫先生 精密機械工学科主任教授



同じ釜の飯を食べた人達がこのような同窓会を作っています。親睦を深められることを心から喜びます。次第です。今後は会員同志の親しさ、やさしさを依り処にして会を運営されてゆかれると同時に、大いにこの会を利用されることを望みます。我々もできるだけのお手伝いを致しますが、なによりも皆さん自身の力で会を発展させて長く続けていきたいと思います。

主任教授に

浅沼強先生が就任



昭和四十五年度以来長年にわたって動力および第二工学部機械工学科の主任教授を務められた萩三二先生が、昨年六月副学長(工学部長も兼任)になられた。そのため、昭和五十七年六月以降、両学科の主任教授は浅沼強先生が引き継がれることになった。

浅沼先生は東京大学宇宙航空研究所所長を経て、昭和五十二年四月より本学の動力機械工学科教授になられ、流体工学研究室に所属されている。同先生は

第一回幹事会議事録

昭和五十七年三月十三日(土)午後三時より、東海大学代々木校舎に於いて、幹事十四名が出席し、第一回幹事会が開かれた。その議事録は次の通りである。

- 一 昭和三十九年度新卒者への勧誘
 - ・岡田隆夫・円能寺久行
 - ・大に於いて
 - ・本会組織を確立し、さらに拡大するための案が出され、次のように決定された。
- 二 昭和三十九年度以前の新卒者への勧誘
 - ・新会員名簿(新卒者名簿)を作成し、趣意書および規約と共に配布して宣伝を行い、本会への入会を勧誘する。
 - ・昭和三十九年度以前の卒業生への勧誘
 - ・会報を作成し、規約および銀行振込用紙と共に郵送して勧誘する。
- 三 昭和五十七年度の事業について

会報および会員名簿を発行し、会員に郵送する。



第1回幹事会風景

機友会の発足にあたって

会長 小林 隆



この度、はからずも光栄ある機友会の会長に推挙され、我身の非力もかえりみずお引受けさせていただきます。まずは本会の発足を会員の皆様と共に心から祝福致したいと思います。私は昭和四十年の春に卒業し、黒沢通信に入社しましたが、その後、富士通に吸収合併され今日に至りました。入社してから数年間は、東海大学の知名度も低く一人の先輩後輩もない状態でしたが、最近では同窓生の諸君と仕事の上でもお付き合いをする機会に恵まれるようになり、本学の発展ぶりに目を見張る思いです。しかし我々同窓生はその大半が四十才以下の年齢層に属しており、これからの数年、共に努力してゆきましょう。

機械工学科創立二十周年記念 公開講座・パーティ開催さる

機友会発足の当日、同じ霞ヶ関ビルにおいて、機械工学科創立二十周年を記念し、「機械工学における最近の計測技術」を統一テーマとして公開講座が開催された。各講演題目と講師は次の通りである。

「エンジン燃焼に関するレーザ計測の現状」
動力機械工学科教授 浅沼 強先生



20周年記念公開講座風景



「最近の流体の可視化技術の動向について」
生産機械工学科教授 中山泰喜先生
「最近の精密工学機器計測について」
精密機械工学科教授 柳 明雄先生

会場には卒業生をはじめとして二百名近くが出席し、最先端の研究成果を熱心に聴講した。

学科の現況と 恩師の去就

恩師の去就

昭和三十六年に機械工学科が発足した当初、教授陣は教授一名・助教一名・助手一名・補助員一名の小さな世帯であった。その後下記の概略年表に示したようなこの二十一年間における拡充、充実に伴い、カリキュラム、教授陣にかなりの異動があった。そこで、この機会に現在の教職員および恩師の去就をまとめました。ご活用いただければ幸いです。

- 菅野玄之助 昭46・6死去
- 和田寛雄 昭44・3退職 昭57・3死去
- 小河内美男 昭56・3退職
- 日根野漢 昭51・3退職 昭56死去
- 平塚喬 昭55・3退職
- 種子島時休 昭46・3退職
- 浅野友一 昭50・5死去



『会員名簿』作成準備中

機械工学科第一期の卒業生以来、四千有余名を数える同窓生および教職員の名簿を作成すべく、現在鋭意準備中ですが、連絡がとれず不明の方があります。友人などで住所変更後の消息をご存知の方がいましたら事務局へお知らせ下さい。できるだけ完全な名簿にしたいと思いま

すのでぜひご協力をお願い致します。なお、会員名簿は実費(配布価未定)でお分けする予定です。事務局へお申し込み下さい。ただし、すでに十年会費を払い込まれた方にはできり次第、無料でお送り致します。

概略年表

- 昭和36年 機械工学科創設
- 37 機械工学科第二部新設
- 38 第二部が第二工学部機械工学科となる
- 39 機械工学科が動力機械工学専攻となる
- 41 福岡校舎教養課程新設に伴ない同校舎に動力機械専攻開設
- 42 札幌校舎教養課程新設に伴ない同校舎に動力機械専攻開設
- 45 大学院機械工学専攻修士課程新設
- 46 大学院機械工学専攻博士課程新設
- 46 動力機械専攻が動力機械工学科となる

教職員 (昭和57年度)

主な担当科目		主な担当科目	
教授 工博 萩 三二	熱伝達論	講師 高本 慶二	機械設計製図
教授 工博 浅沼 強	流体力学	講師 鈴木 六郎	機械工学実験
教授 工博 金田 彰夫	機械力学	講師 前田 和	材料力学および演習
④教授 工博 井ノ内一雄	流体機械	講師 柏谷 平	図学及び基礎製図
教授 工博 国本 隆	材料力学	講師 弓野 崇	機械工学実験
教授 工博 太田喜八郎	応用数学	講師 川上 修巳	機械力学
教授 工博 小林 學	自動車および車輛工学	②講師 竹内 生公	材料力学
教授 工博 佐野 妙子	工業熱力学	③講師 松前 幸生	金属加工学
教授 工博 吉川 英夫	蒸気工学	①④講師 丸島 俊雄	流体力学および演習
②教授 工博 三浦 貞二	機械製作	④助手 円能 久行	機械工学実験
③教授 工博 猿渡 稔郎	機械設計製図	一級技術員 平柳 弘三	教務および就職担当
①教授 工博 中城 忠彦	金属加工学	一級技術員 伊藤 昌夫	事務担当
①教授 工博 後藤 武一	材料力学	二級技術員 井山 幸子	
①教授 工博 藤野 勉	振動学	二級技術員 小泉 靖子	
①教授 工博 橋本順一郎	材料力学	技術補助員 青木 宏和	
①教授 工博 小早川 隆	内燃機関		
助教授 村上俊太郎	機構学		
助教授 飯島 敏雄	図学及び基礎製図		
助教授 工博 康井 義明	材料力学		
講師 工博 林 守仁	機械材料		
④講師 奥川 朋高	機械製作		

[注] ① 委嘱教授・講師
② 札幌校舎所属
③ 福岡校舎所属
④ 第二工学部所属

- 加古一郎 生産機械工学科教授
- 松本秀司 札幌校舎 教授
- 栗原孫一郎 福岡校舎 教授
- 山口貫一 学生相談室
- 吉田元 昭47・4九州東海大 学へ移籍 昭53・3退職
- 遠藤信 昭53・3退職
- 阿曾真一郎 精密機械工学科教授
- 浦原明 死去
- 興津史朗 札幌校舎教養部長 昭57・12死去
- 富家知道 生産機械工学科教授
- 八田桂三 昭54・12退職 現在運輸省航空機事故調査委員会委員長
- 西村源六郎 精密機械工学科教授
- 駒林栄太郎 航空宇宙学科教授
- 野口和男 応用物理学科教授
- 村尾淳 昭57・3退職現在非常勤
- 山崎慎一郎 昭42・3退職 現在東京工專教授
- 坂井徹郎 生産機械工学科助教授
- 青木克己 助教授
- 沢村洋 助教授
- 佐藤優 精密機械工学科助教
- 森下忠衛 生産機械工学科講師
- 北澤敏行
- 仲尾益幸 札幌校舎生産機械工学科講師
- 太田敏昭 生産機械工学科講師
- 尾崎晃一 精密機械工学科講師
- 香川勝一 生産機械工学科助手
- 笹沼節夫 助
- 小島廣志 昭49・3退職現在KOBATAKE彫刻工房主宰二科会々員
- 謝世明 昭45・3退職
- 大勝孝司 昭47・3退職・現在東京大学助教
- 久保田武雄 昭46死去
- 西山常樹 昭53死去
- 布川(奥池)庄平 昭38・3退職現在布川設備工業社長
- 谷口順夫 昭41・3退職
- 引地衛 昭45・3退職 現在大宮ガウス社長
- 田口佑三 昭49・3退職現在デンマーク在住
- 鈴木良幸 昭44・3退職現在東京工專講師
- 畠山(桑名)芳直 昭46・3退職現在高知高等専門学校教務
- 佐藤清 生産機械工学科助手
- 土屋賀代 昭44・3退職
- 鈴木賢一 昭46・3退職
- 中村不二磨 昭48退職
- 石井伝次 生産機械工学科技術補
- 後藤年治 一級技術員
- 高塚義司 一級技術員
- 吉川武男 一級技術員
- 高野卓至 昭57・3退職
- 鈴木運藏 生産機械工学科二級技術員
- 千葉顕 二級技術員
- 牧島良美 二級技術員
- 佐藤初一 昭45・3退職
- 村山稔 昭45・3退職
- 小荷田庄次 昭50・3退職



山秀洋服店
 ☎(03)944-3540
 文京区本駒込2-8-3-104 〒113
 《紳士注文服》
 《イージーオーダー》
 ●クレジット1回~20回OK
 お気軽に電話又はご来店下さい。
 《山本秀隆》

各種プラント設計
(有)大成エンジニアリング
 代表取締役社長 大島 守之
 東京都南大塚3-25-2
 ☎ 03-986-2872

省力化、無人化装置のバイオニア!!
 半導体生産設備、Tr・IC・SCR等の測定装置およびXYZO微動装置等の設計製造
フェイム株式会社
 工場 〒192 東京都八王子市元本郷町3-13-1
 ☎ 0426-26-6207 (代)

研究室紹介 流体工学研究室

流体工学研究室は
浅沼強教授・飯島敏
雄助教・弓野崇講
師および円能寺久行
助手の四名の教員、
三名の大学院生（修
士）十七名の学部生
およびブルガリアの
大学からの研究員、
ラディフ博士で構成
されている大世帯の
研究室である。



最初実験室を覗か
せていただいたとき
は、副室付燃焼機関
がその中央にどっし
りと据えつけられて
おり、一瞬エンジン
実験室かと思われた
が浅沼先生のお話を伺うとまさ
にこのエンジンに関連した流れ
と熱の両面からの研究が行なわ
れているとのことであった。副
室付燃焼機関は少量の濃い混合
気を先ず副室で着火し、そのト
ーチ噴流によって主室内の稀薄
な混合気に乱れを発生させ、迅
速な燃焼を行なわせようとする
もので、排ガス浄化や省エネ
ルギ機関として現在注目されて
いるものである。

しかし副室やトーチノズルの
幾何学的な形状や運転条件等
によって、主室および副室内の流
動および燃焼がどのようになる
か、またその最適条件等につ
いては未だ解明されていない点
が多く、現在研究室ではこの副
室付機関で最も重要な役割を果
す噴流についての種々の基礎的
研究と、研究用に作られた副室
およびノズルを取りつけた実機に
よる燃焼実験が行なわれている。
研究室の最終目標はこれらの基
礎研究をもとに副室付燃焼機関
のモデリングを行ない、近年飛

- 日本機械学会 昭55・10
- 二次元衝突噴流に関する研
究（流れの可視化学会 昭
56・7、昭57・11）
- 副室付燃焼機関の燃焼特性
（日本機械学会 昭55・7、
昭57・9）
- 副室付燃焼機関の温度測定
（国際自動車技術会議 昭
57・11）
- 密閉容器内火炎伝播の理論
解析（アメリカ航空宇宙学
会 昭56・8）
- 球形容器法による燃焼速度
の測定（国際燃焼学会 昭
56・7）

躍的に発達したコンピュータを
用いてサイクルシミュレーショ
ンを行なうことにあり、そのた
めに一方では火炎伝播や燃焼に
ついての理論的解析も行なわれ
ている。

現在当研究室で行なわれてい
る主な研究テーマは

- 軸対称衝突噴流に関する研
究
- 二次元衝突噴流に関する研
究
- 非定常噴流に関する研究
- 火花追跡法によるシリンダ
内流れの可視化
- 副室付燃焼機関の燃焼特性
- 密閉容器内の火炎伝播の理
論解析

また最近当研究室から発表さ
れた研究論文をいくつか挙げる
と

- 軸対称衝突噴流に関する研
究（日本機械学会 昭54・
7、昭55・7、昭56・8、
昭57・9）
- 二次元噴流に関する研究

のように流れの中に挿し込む必要
がないので、流れを乱すことが
なく、また燃焼ガスなどの高温
の場での速度も測定できるので
近年流体計測で非常に中心をも
たれている測定器であり、つい
先日も新たに一台（日本科学工
業製、一千三百万円）が入庫さ
れた。研究室の第二の自慢はマ
イクロコンピュータで、五年前
にキットのものを購入して組立
て、それにADコンバータ、D
Aコンバータおよびインターフ
ェースなどを自作して流速測定
に用いたのははじまり、現在で
は計三台を有しているが計測や
解析用に各班が取り合いをして
おり、近いうちにより高速で、
かつ容量の大きい16ビットマイ
コンの購入も計画されていると
のことである。新しい機器が色
々と揃い、研究に一段と熱が入
っているようである。

浅沼教授談
「我々の研究室では流れの可
視化法やレーザー計測器等を利用
して噴流や燃焼に関する基礎的
な研究を行なっている。場所は
狭いが、設備も少しづつではあ
るが揃ってきたので、教員はも
ちろんのこと大学院生および卒
研究生も皆頑張って研究に取り
組んでいる。現在大学院生三名の
うち二名は韓国および台湾から
の留学生で、それに十月からは
ブルガリアのラディフ博士も加
わって研究しており、非常に国
際豊かな雰囲気だ、若い諸君
には国際感覚を身につけてもら
うのに非常に良い環境にもな
っている。

先輩の河西社長（四十二年
卒）が経営されている当社は、
各種専用機械や金型等のメーカ
ーで、高い技術水準に定評があ
る。機械部門では、現在特にロ
ボットに力を入れている、コス
ト・大きさ・使用材料・使用電
力等、多岐にわたる注文者のニ
ーズにこたえられるようなロボ
ットが多種製造されている。溶
接、TVブラウン管の清浄、餅
切り、製材……etc. なんて
もござれというところ。

製品のもう一つの柱である金
型部門では、放電加工による超
硬鋼材の成型技術が自慢で、
レグセル工業発展のキッカケを
作ったことである。これは
当社が開発された販売もされて
いる極めて精度の良い高品質の電
極に負うところが大きく、コン
ピュータ制御を取り入れること
により、精密加工と大量生産の
両方の要求に応じられるような
最先端の金型製造技術が追求さ
れている。

さて、当社では河西社長以外
にも九人の機械科同窓生が活躍
しておられる。取締役で藤沢工
場長の奥脇氏（四十一）、業務

の菅野氏（四十一）、営業の内
山氏（四十四）、設計では早坂
氏（五十二）、上武氏（五十二）、
若手では橋本氏（五十四）、南
氏（五十五）、小林氏（五十六）
のみならずである。今回の工場
訪問では、これらのOB諸氏と
他の数十名の社員の方々の団
結の強さが印象的で、社長の経
営哲学がみんなの中に感じられ、
ハングリ精神で前進している
技術軍団といった趣きがある。

本社よりも工場に居ることが
多い河西社長は、「日本や世界の
トップ企業と付き合っている最新
の技術にふれ、魅力ある新製品を
どんどん世に出すよう後輩の諸
君と頑張っています」とニコ
ニコ顔。こんな環境は技術者に
とっても大きなロマンであるに
違いない。また、「新機種を作
る場合には、わからないことが
次々に出てきます。そのために
私達の民間研究所を作る計画も
進めているところですよ」との
こと。今後の発展が大いに期待
される会社でした。東海大卒業
生「ガンバレ！」
（記昭和四十五年度卒業生）

会社訪問

レグセル工業株式会社



河西正彦社長

代表取締役 河西正彦（四十
一年度卒）
*昭和四十五年六月設立 各種
金型の設計製作・専門機械の
設計製作・各種粉末冶金製品
の製造販売・工作機械及び工
具類の製造販売

*本社・相模原市東林間
*資本金 四千万円
*主要取引先
松下精工(株)、松下冷機(株)
大日本印刷(株)、凸版印刷
(株)、日本ラヂエーター
(株)、キャノン(株)、東



藤沢工場の一部



機械科OB諸氏



レグセル工業株式会社

代表取締役 河西正彦

本 部 〒228 神奈川県相模原市東林間6-20-15 ☎0427(45)6485代
相模原営業所
埼玉営業所 〒330 埼玉県大宮市宮原4-1-9 ☎0486(67)4045代
藤 沢 工 場 〒252 神奈川県鎌倉市上土欄701 ☎0467(77)0371代

（当社は東海大学卒業生で設立された会社です）

あらゆるニーズにお応えする鋭角の頭脳集団！

- ・情報機器システムの調査研究及び開発受注
- ・オンラインリアルタイムアプリケーションシステムの設計受託
- ・アプリケーションソフトの開発及び運用
- ・制御システム（電力・計測・データ通信等）の開発
- ・各種ミニコン使用システムの開発



株式会社 ソイック
〒150 東京都渋谷区東3丁目15番5号(AYビル)
☎(03) 409-7232代
代表取締役 大原 順夫 (昭和43年度卒)

機友会会則

第1章 総則

第1条 本会は東海大学機友会と称し、事務局を東海大学代々木校舎動力機械工学科事務室に置く。

第2条 本会は会員相互の親睦を計り、あわせて工学部動力機械工学科および第二工学部機械工学科の発展に寄与することを目的とする。

第2章 会員

第3条 本会は次の会員により組織する。

第4条 会員の資格

1.正会員 2.学生会員 3.特別会員 4.賛助会員 5.名誉会員

1.正会員：東海大学工学部機械工学科、機械工学科動力機械専攻、動力機械工学科および第二工学部機械工学科を卒業した者、大学院工学研究科機械工学専攻を修了した者並びに代議員会の承認を得た者

2.学生会員：東海大学工学部動力機械工学科および第二工学部機械工学科に在学中の者

3.特別会員：東海大学工学部機械工学科、動力機械工学科および第二工学部機械工学科に過去勤務していた者および現在勤務している者

4.賛助会員：本会の趣旨に賛同する者

5.名誉会員：本会对し、特に功績のあった者で代議員会により推薦された者

第3章 役員および役員会

第5条 本会には下記の役員を置く。

1.会長：1名 2.副会長：2～3名 3.幹事：若干名 4.代議員：各卒業年度毎に若干名 5.会計：2名 6.監査：2名

第6条 役員は下記の通りとする。

1.会長：会を代表し、会務を総括する。

2.副会長：会長を補佐し、会長に事故あるときはこれに代る。

3.幹事：会の日常業務について協議し、実行にあたる。

4.代議員：会員を代表し、重要事項を審議決定する。

5.会計：会計事務および会計報告を行なう。

6.監査：本会の運営および会計を監査する。

第7条 役員は下記の通りとする。

1.会長：代議員会の互選を以てこれを選ぶ。

2.副会長：会長が指名し、代議員会の承認を得る。

3.幹事：副会長の選出に準ずる。

4.代議員：各期生毎に若干名を互選する。

5.会計：会長の選出に準ずる。

6.監査：会長の選出に準ずる。

第8条 本会には下記の役員会を置き、その任務は次の通りとする。

1.幹事会：会長、副会長および幹事より構成され、会長の招集により

随時開催し、本会の会務を審議する。なお会長の判断により会計の参加を認めることができる。

2.代議員会：会長、副会長および代議員より構成され、会長の招集によって会の重要事項を審議決定する。代議員会の決議は出席代議員（委任状を含む）の過半数による。なお代議員の過半数の要請がある場合、会長は代議員会を招集しなければならない。

第9条 役員は任期は3年とする。

第4章 総会

第10条 総会は代議員会の決議を経て会長が招集する。

第11条 総会の決議は正会員の出席総数（委任状を含む）の過半数を以て決定する。

第5章 事業

第12条 本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行なうことができる。

1.会員相互の親睦および技術交流等を促進するための諸事業。

2.名簿、会報等の発行

第13条 本会は東海大学の他の機械系同窓会および機械系四学科と協力して第12条の事業を行なうことができる。

第14条 事業報告は総会において行なう。

第15条 本会の事業年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第6章 会計

第16条 本会の運営は会費およびその他の収入を以て行なう。

第17条 本会正会員の1年会費は2,000円、5年会費は5,000円、10年会費は10,000円とする。

第18条 会計報告および会計監査報告は総会で行なう。

第19条 本会の会計年度は事業年度と同一期日とする。

第7章 支部

第20条 本会には次の支部を置くことができる。

1.地方支部 2.学生支部

第21条 支部の規約は本会代議員会の承認を得るものとし、本会則に反する規約を定めることはできない。

第22条 支部には支部長を置き、本部との連絡をとるものとする。なお支部長は自動的に本会幹事となる。

第8章 会則の改正

第23条 本会会則の改正は総会において出席者（委任状を含む）の2/3以上の賛成により決議される。

第9章 付則

1.会員の身辺に変更がある場合には本会に速やかに報告しなければならない。

2.本会則は昭和56年11月15日より施行する

役員

幹事	副会長	会長
河野 正彦 (昭41レグセル工業)	大島 守之 (昭39大成エンジ)	小林 隆 (昭39富士通)
遠藤 和男 (昭39吉祥寺往販)	奥川 明高 (昭39高砂鉄工)	
岡田 隆夫 (昭39中央設備)	高橋 紘 (昭39中央設備)	
村上俊太郎 (昭39東海大学)	山本 秀隆 (昭39テラヤマ)	
飯島 敏雄 (昭40東海大学)	長谷川 勝 (昭40望星機工)	
星川 公一 (昭40美和ロック)	奥野 重男 (昭41ヤナセ自動車)	
高本 慶二 (昭42東海大学)	弓野 崇 (昭42東海大学)	
関口 祐一 (昭42久保田鉄工)	関野 祐一 (昭45昭栄堂)	
円能寺久行 (昭46東海大学)	森田 卓支 (昭46西脇研究所)	
堀田 和成 (昭48日本軽金属)	石井 辰夫 (昭49町田工業高校)	
小杉 伸一 (昭50荏原サービス)	伊藤 昌弘 (昭40東海大学)	
鈴木 良幸 (昭41東京工業高等専門学校)	平井 弘三 (昭39東海大学)	

代議員

卒業年度	氏名
昭39	佐々木 直樹
昭40	今泉 良一
昭41	鈴木 幸一
昭42	小川 征三
昭43	長谷川 弘
昭44	藤井 義郎
昭45	松本 治
昭46	水野 哲
昭47	山田 直人
昭48	山田 直人
昭49	山田 直人
昭50	山田 直人
昭51	山田 直人
昭52	山田 直人
昭53	山田 直人
昭54	山田 直人
昭55	山田 直人
昭56	山田 直人
昭57	山田 直人
昭58	山田 直人

昭和56年度会計報告 (S57.8.16現在)

収入の部		支出の部	
寄付	100,000	設立準備委員会	33,670
レグセル工業(株)		発会式準備費	237,410
東京テレレーター(株)	30,000	事務局費用	70,805
信友印刷(株)	3,000	幹事会費用	25,650
井之内一雄教授	10,000	卒業生勧誘事業費	27,390
国本 隆教授	2,000		
既卒者会費納入金(178名分)	1,141,000	預金残金	1,400,791
56年度卒会費納入金(224名分)	499,000		
預金利息	10,716		
合計	1,795,716	合計	1,795,716

昭和57年10月13日

監査 佐々木 彰

上記監査の結果、相違の無い事を認める。

鈴木 良幸

※編集後記※

機友会報創刊号がやっとこのように形がまとまりました。当初二ページの予定を思いきって四ページにしましたが、規約など創刊号としてぜひ必要な記事がかなりありなるとか紙面を埋めることができず、二号以後に積みましてはいたるところ「会社訪問」、「研究室紹介」を連載にするつもりでありますが、その他の内容につきましては、会員諸兄のご意見ご希望を取り入れてゆきたいと思っております。どしどし事務局までご提言下さい。

なお、題字は副学長の萩三二先生にお願い致しました。この欄を借りて厚く御礼申し上げます。(T・O)

各種試験機器模型製作
精密機械機具設計製作
光学機械設計製作



今井工業株式会社

〒176 東京都練馬区氷川台3-36-20
電話 03(931)8403

技術開発

お手伝いいたします。



(株)西脇研究所

〒173 東京都板橋区加賀1-8-1 野口研究所内
☎03-962-6970, 8427

排水処理設備設計施工

望星機工株式会社

産業排水処理設備 本社 東京都中央区日本橋本町4-8
合併処理設備 ヨネズビル3F
上記機器代理店業務 ☎03(662)9448(代)
代表取締役 長谷川 勝(40年度卒)